週間展望・回顧（ポンド、加ドル）

January 24, 2020

英、利下げは先送りか

◆英、31 日に EU 離脱
◆英中銀、利下げは見送りか
◆加中銀は今後の利下げを排除せず、11 月 GDP に注目

予想レンジ
ポンド円　139.50-146.50 円
加ドル円　82.00-86.00 円

1 月 27 日週の展望

「離脱関連法案」が英上院で承認され、英国は 31 日午後 11 時（日本時間 2 月 1 日午前 8 時）に欧州連合（EU）から離脱する。その後 11 カ月の移行期間に入り、EU との貿易協定の交渉が本格化する。しかしながら交渉は始まる前から難航が見込まれ、ポンドは上値の重い動きが続くか。

ジョンソン英首相は離脱を EU に課されている制限から離れるチャンスとみているが、EU 側は英政権が欧州単一市場へのアクセスでどこまで EU の規則を守ることに同意するか警戒している。関税や数量制限のないモノの往来を保障する自由貿易協定が交渉の中心になるも、国家支援の制限や労働・環境基準、漁業権、金融サービスなども重要な問題で、厳しい交渉が予想される。

30 日にイングランド銀行（BOE）の金融政策会合が予定されている。インフレの減速や、金融政策委員会（MPC）メンバーが経済の先行きに懸念を示したことを背景に利下げ思惑が高まったが、今週の雇用指標が良好な結果になったことで利下げ思惑はやや後退した。9-11 月の就業者数は約 1 年ぶりの大幅増加となり、失業率は 3.8%と 1975 年以来の低水準を記録。賃金（賞与含む）は前年比+3.2%と約 1 年ぶりの低水準となった前回と変わっていない。インフレの減速で賃金の伸びは昨年夏以降、鈍化しているが、実質的に賃金は増加傾向を維持している。昨年 11・12 月会合ではサンダース MPC 委員とハスケル MPC 委員が利下げを主張し、今年に入ってカーニー総裁も含めた他の 3 人の委員も利下げが必要かもしれないとの見解を示した。利下げ観測は払しょくされていないが、離脱前日という微妙なタイミングであることから利下げは見送られる可能性が高い。加ドルは今週のカナダ中銀（BOC）の政策会合を受けて上値が重くなっているものの、下値は限られるか。BOC は今週の会合で政策金利を市場予想通り 1.75%で据え置いた。市場ではハト派姿勢を弱めるとの期待もあったが、BOC は国内経済の減速が長引いた場合、利下げの可能性を排除しないとした。声明では、経済は底堅いものの、最近の経済指標は強弱まちまちで、消費者信頼感や個人消費が予想より軟調との見解を示し、企業の設備投資も弱まっていると指摘した。BOC の政策変更は今後の指標次第とのスタンスを維持している。来週は 11 月 GDP に注目。トルドー加首相は米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）の批准に向けて 29 日に関連法案を提示すると明らかにし、議会に迅速に可決するよう求めた。トルドー首相の与党自由党は過半数を割り込んでおり、法案の可決には他党の協力が必要となるが、最大野党の保守党は協定の精査が必要と表明しており、批准手続きが長引く可能性もある。

1 月 20 日週の回顧

ポンドは底堅い動き。雇用指標など今週の英経済指標が良好な結果となり、利下げ思惑が後退したことを背景に、ポンドドルは 1.31 ドル半ば、ポンド円は 144 円半ばまで買われた。一方、加ドルは売りが優勢。BOC 声明が市場予想よりハト派寄りの内容になったことが重しとなり、ドル／加ドルは 1.31 加ドル後半、加ドル円は 83 円近辺まで加ドル安となった。対円では中国の新型肺炎への懸念が重し。（了）

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際に投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright DZH Financial Research, Inc.